

# 全国の子どもたちに「ライフジャケット」を！

—これまでの活動から見てきたこと—

ライジャケサンタ・森重裕二（「子どもたちにライジャケを！」代表）

## 1. これまでに発生した事故から

### (1) 高知県四万十川での事故（2007.7.31）

滋賀県甲賀市甲賀市教育委員会信楽中央公民館主催の行事で近所の小学校の児童2名が高知県の四万十川に遊びに行っていた際に、溺れて死亡する事故が発生。事故報告書に監視体制や事故対応が語られたが「ライフジャケット」については語られなかった。新聞報道でも「予測困難であった。」と教育長が遺族に釈明していたことが報道されている。

### (2) 愛媛県西条市加茂川で事故（2012.7.20）

幼稚園のお泊まり保育中に加茂川での活動中、増水した川に流された吉川慎之介くん（当時5歳）が溺れて亡くなる事故が発生<sup>i</sup>。民事・刑事裁判ともに「ライフジャケット着用義務」を認定。この判例から、学校や園、子ども会などで、水辺に子どもたちを連れていく時には「ライフジャケット」を準備することが義務ということがはっきりした。

### (3) 香川県坂出市与島沖修学旅行における旅客船沈没事故（2020.11.19）

香川県坂出市立川津小学校の修学旅行中に起こった事故。児童や教員合わせて62名が乗っていたものの全員救助。全員が「ライフジャケット」を着用していた。香川県内では、紫雲丸沈没事故（1955.5.11）のこととともに話題になった<sup>iii</sup>。

これまでは、高知県四万十川での事故のように「予防」への意識があまりなかったが、大きな転機となったのは、愛媛県西条市吉川慎之介くんの事故についての裁判であった。それまでは、事故が起きてしまったら「事故が起こった後にどう対応したのか？」が問われていたが、「事故が起こる前にど

んな準備をしていたのか？」が問われるようになった。

また、香川県坂出市の事故事例のように、「ライフジャケット」を装着していることで、事故が起こったとしても、最悪の事態を防ぐことができた…という事故があったことも「ライフジャケット」を準備することについての意識を加速させた。

## 2. 香川県での「ライフジャケット」の動きから

### (1) 県内企業による「ライフジャケット」寄贈から「ライフジャケットレンタルステーション」の開設

県内の企業、海と日本プロジェクトの協力によって、「ライフジャケット」の寄贈の動きがスタートした。香川県教育委員会は、2021年6月末に寄贈を受けた50着の「ライフジャケット」でレンタルステーションを開設したところ、告知したその日にシーズン中の予約が全て埋まってしまった。レンタルがなければ「ライフジャケット」の話は上がらなかったが、貸し出しが始まった途端にニーズが溢れたことから、潜在的なニーズが高かったことが分かった。



このことから、「ライフジャケットレンタルステーション」<sup>iv</sup>の動きが広がり、現在は県環境管理課が50着、県教育委員会が寄贈340着を貸し出しし

<sup>i</sup> 「四万十川における水難事故報告書」

<https://www.city.koka.lg.jp/secure/7331/report.pdf>

<sup>ii</sup> 「愛媛西条・学校法人ロザリオ学園の事故の記録」

<http://eclairer.org>

<sup>iii</sup> 全員生還のポイントは浮いて救助を待てたこと修学旅行中のクルーズ船事故（水難学会会長・斎藤氏）  
<https://news.yahoo.co.jp/byline/saitohidetoshi/2020120-00208695>

ている。また、県内企業とマリンスポーツ財団から寄贈があり、県内全市町に合計約 500 着が寄贈され全市町が所有している。

また、県教委が「ライフジャケットレンタルステーション」に積極的に取り組んでいることから、民間での「ライフジャケットレンタルステーション」の開設も広がっており、県内の「ライフジャケット」のレンタル総数は 1000 着を超えている。

## (2) 香川県教育委員会「ライフジャケット推進事業」

スポーツ庁の「令和の日本型学校体育構築支援事業」の委託事業として、令和 4 年度から香川県教育委員会が「ライフジャケット推進事業」を推進している。推進委員として、香川大学、高松海上保安部、香川県警察本部、香川県消防局長会、小児科医、B&G、香川ライフセービングクラブ、県立プール、子どもたちにライフジャケットを！などが委員となって、県内での「ライフジャケットレンタルステーション」について、小学校での「ライフジャケット教育」についての議論を推進している<sup>v</sup>。



## 3. 全国の「ライフジャケット」の動きから

### (1) 全国の議員の議会での提案

愛媛西条の事故の判例から、「ライフジャケット」を装着させることが義務となっていることについて、学校や園、子ども会などで水辺の活動であった事故については、自治体に責任があるということについて、できるだけ多くの議員さんに知らせたいと考え、繋がりのできた方には直接お伝えし

たり、Youtube にもメッセージを録画<sup>vi</sup>し、SNS 等で拡散した。その結果、各地の議会で「ライフジャケット」についての質問が出されているが、質問から予算化されたのは 1 例にとどまっており、多くの地域で「ライフジャケット」を行政の予算で準備することには至っていない。

質問に対する答弁は、「啓発する」というものがほとんどであるが、実際に使用する「ライフジャケット」がない地域がほとんどであり、おそらく「啓発」が成功したとしても、実際の場面で使用することができない現状がある。

### (2) 全国の自治体に「ライフジャケットレンタルステーション」を！

香川県で県内企業の寄贈により「ライフジャケット」そのものを準備できたことで活用が広がっている現状から、「全国の自治体に『ライフジャケットレンタルステーション』を！」をスタートさせた。まずは、香川を除く 46 都道府県に対して、クラウドファンディングでの寄贈を申し出たところ、46 都道府県のうち、受け入れると回答があったのは、これまで「ライフジャケット」のレンタルを実施していた 2 県、このメッセージをきっかけにスタートさせたいとした 1 県、備品として受け入れ希望があった際に貸し出すとした 2 県の合計 5 県であった。ほとんどの都道府県で、受け入れは不可との回答であり、その理由としては、「管理ができない」、「運営ができない」、「県の所管ではない」、「ニーズがない」などであった。

このことから、まだ行政が「ライフジャケット」を準備する意識は広がっていないことが伺える。「ライフジャケット」を準備しなければならない状況であることについて過去の判例の周知が求められるであろう。また、「ライフジャケット」のニーズが高いことや、香川県のように成功している事例の周知などが求められると考える。

<sup>iv</sup>香川県教育委員会ホームページ「ライフジャケットレンタルステーション」

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/hokentaiiku/anzen-hoken/anzen/raijake.html>

<sup>v</sup>香川県教育委員会ホームページ「ライフジャケット

推進事業」

[https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/hokentaiiku/taiiku-sports/taiiku/lifejacket\\_promotion.html](https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/hokentaiiku/taiiku-sports/taiiku/lifejacket_promotion.html)

<sup>vi</sup>「全国の議員のみなさまへ」

<https://youtu.be/Plg4ljOYv94>

#### 4. 私が考える現在の課題

##### (1) 「ライフジャケット」の流通量

香川県内で、2021年に香川県に50着と坂出市に100着ちょっとの寄贈をした際、日本の大きな「ライフジャケット」メーカーの2社の在庫が底をついた。これまでも、シーズンの途中で「ライフジャケット」が売り切れることが多くあったが、この動きで流通している絶対量が少ないことが分かった。この量であれば、自治体等での「ライフジャケット」を購入する…というニーズがあったときには対応できないことは明白であり、全国のニーズに対応できる量では決してない。

例えば、47都道府県に100個ずつの「ライフジャケット」が導入されるとすると、単純に計算しても4,700個、1,718全市町村に100個ずつ導入されるとすると、171,800個必要となる。各学校や園で準備することを啓発するのであれば、もっと個数が必要になるが、現在はこの量に対応できるだけの流通量はまだない。

メーカーにこの話を相談したところ、やはり多くの在庫を抱えることは考えにくいとのこと。「ライフジャケット」の普及啓発をしていくのであれば、例えば今後の自治体で「ライフジャケット」を充実させていく計画等を共有し、メーカーも一緒になって今後について考えていく必要があるだろう。

##### (2) 行政による「ライフジャケット」の準備

先ほど述べたように、全国の都道府県に「ライフジャケット」の寄贈を申し出た際、受け入れられない理由は、「管理ができない」、「貸し出しの運営ができない」、「県の所管ではない」、「ニーズがない」などの回答であった。中には「50着では足りない」といった声もあった。西条の事故の裁判で、活動時の「ライフジャケット」が義務として認定されているが、どう準備するべきかについての議論がなされていないのでは…と感じている。

現在は広がってきている香川県においても、一番初めにまず「受け入れる」というところが大きな壁であったと指導主事も語っている。しかし、そのニーズの大きさから、大きく数を増やして運営をしてくださっている。現在は、340着の貸し出し、さらに

市町にも約500着が寄贈されているが、この数では足りないという声がある。確かに、複数の学校や団体からの希望があれば、数は全く足りない。

しかし、数が増えると、貸し出し等の業務も負担が増えることになる。おそらく、今後は県教委が全てを担当するところから、市町村教委、そして学校・園へと広げていくところまでイメージしておかないと対応はできないことが予想される。

##### (3) 「ライフジャケット」についての指導体制

香川県で「ライフジャケット」が広がってきて、すぐに課題となったのは「着用方法を正しく指導すること」であった。ただ“もの”を貸し出しすることはできたとしても、その着用方法がちゃんとできていなければ、命に関わるからである。

2023年度、香川県では、香川大学、高松海上保安部、B&Gの方が指導を担当してくださり、15校においてプールでの「ライフジャケット教育」を行った。その実践から、県では指導モデルをまとめていくことになるだろう。しかしながら、指導にかかる負担が大きく、今年度は10校での実施に縮小された。



つまり、研究はできて、指導モデルができたとしても、その後は、学校での指導に対するサポートには限界があるということである。香川は、幸いなことに、大学、海上保安庁、B&Gなどがあり、協力して指導ができたが、他の都道府県、他の地域でこの体制を段取りすることが難しい地域もあるだろう。ただ、装着方法が指導できなければ、逆にリスクが高まることもある。そのためにも、学校や園へサポートできる環境も整えていく必要があると考えている。

他地域でのモデルとしての動きであることを考慮し、香川では、これから指導體制の充実のため、大学、海上保安部、B&G、ライフセービングクラブ、消防、警察、スイミングスクールなど、できるだけ多くの指導できる方を巻き込んでおく必要があると考えて、研究を推進していく予定である。

また、今後、大きく「ライフジャケット」そのものが広がっていくとすれば、いずれは学校の先生が指導できる形づくりも求められるだろう。

## 5. 取り組みから見えてきたこと

「ライフジャケット」は、啓発すれば広がっていく…といったイメージがあると思うが、流通量の不足、自治体等の受け入れの難しさなど、広がりをスタートさせる難しさがあることが見えてきた。

そして、自治体等で一旦受け入れができた後の「ライフジャケット」の数の圧倒的な不足、指導體制づくりの難しさなど、広がった後の課題も大きいことが分かってきた。このことから、「ライフジャケット」を広げていくには時間が必要であり、今後もし「ライフジャケット」を広げていくのであれば、できるだけ早く着手する必要があるだろう。

おそらく、地域に任せていけば、導入の課題の大きさから、関心の高いところで広がるだけで、多くの地域で「必要だとは思いますが、難しい…」ということになるだろう。

シンプルな話だけれど、“もの”が揃っていない、環境が整っていないと準備が難しい。水辺の安全に関心のある大人がいれば、なんとかして準備して事故を防ぐことができると思うが、事故が起こるのは関心のない方の場所という可能性がある。

四万十の事故、愛媛西条の事故も、ご遺族の方は普段から「ライフジャケット」を着用させていた。しかし、関係者にはその意識がなく、事故が起こってしまったという事実がある。繰り返しになるが、西条の事故の判例から、「ライフジャケット」を着用させることは義務だと認定されている事実がある。しかしながら、現状のように環境が整っていないままだと、いくら啓発したとしても、

再び同じような事故が起こってしまうかもしれない。

もうこれまでに、水辺の事故はたくさん起きている。これらの事故の教訓を生かす意味でも、絶対に事故を起こしてはいけぬ。防げる事故は防がないといけぬ。守れる命は絶対に守らないといけぬ。

さまざまな障壁があり動き出しにくい事実があることは明らかではあるが、香川県で実際に大きく動き出しているように、動き出せば変わっていくことがはっきりしている。ぜひ、会員のみならず、全国の子どもたちを守るために、今後の広がりを促していくような1つの動きを作っていただきたい。子ども安全学会のみなさん発信で、全国に大きなムーブメントが動き出すことを心から願っている。

「思いはただ1つ…子どもたちの命を守ること。」

「子どもたちにライフジャケットを！」

<http://lifejacket-santa.com>